修士課程を終えて

平成 23 年度修士課程修了　　森　友里奈

私の修士 2 年間は、すべてが学びばかりの毎日でした。院生としての学習内容はもちろん、論文のまとめ方、統計方法、インタビューのテープ起こしなど、その都度新しい課題にぶち当たり悩んで迷っての繰り返しでしたが、橋本先生や研究室の皆さんの存在が私の背中を力強く押して下さったおかげで、課題を乗り越えることにやりがいを感じられるようになったというのは、まさしく研究に対する自分自身の気持ちの変化であり、成長できた部分だと感じております。

また、ちょうど自分の研究をスタートさせようとした、その日が東日本大震災の日でした。研究に取り組む中で、さまざまなジレンマを感じることも少なくなかったですが、だからこそ私が今この研究課題に向き合う目的を曖昧にせず、真摯にこの研究に取り組みたい、と素直に思えたのだと思います。

量的調査を終えた後の質的研究では、毎日 2 組のインタビュー、終わりの見えない文字起こしに追われて、だんだん現実が見えてきたような、見えてこないような、とにかく前進あるのみという気持ちだけで進んでいた期間もありました。傍で私を諦めずに見守り、ご指導下さった橋本先生、村田さん、茂木さん、森岡さん、丸井さん、田中さん、小竹さん、榎村さん、佐久間さん、諸先輩方の支えと励ましがあったからこそ、こうして論文が出来上がり、今の自分がいるのだと実感しております。本当にありがとうございました。

これから、精神科の病院でケースワーカーとして働きますが、退院後の地域に向けたアウトリーチも現場のこれからの課題としてあり、2 年間の得た学びを生かす場面がまだまだ多くありそうです。私自身も、これから多くの疑問や問題点に出会うだろうと思いますが、その時は研究室で過ごした日々やその時の気持ちに立ち戻って、皆さんに負けないように成長し続けていきたいと思います。ここで過ごせた 2 年間は、私にとって貴重な宝物です。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

平成 24 年度修士課程修了　榎村裕子

２００９年に看護学校教員から看護大学教員（母性、助産学）として勤務することになり、研究日がとれることになりました。そこで、橋本教授に電話したところ、すごく感じの良い返事で、お会いさせていただきました（10 年前に本学二部で橋本教授の講義を受講)。子育てもあり、なかなかできなかった念願の研究を、偶然、社会人入試もあるようになって、先生の教育学研究室で始めさせて頂くことになりました。

振り返ると、1 年目は特論や文献研究について学び、未熟な知識と少ない学習経験で臨みましたので、論理的思考に慣れるのに長期の時間を要しました。2 年目、研究室の小竹さんからは文献検索等を、茂木さん、森岡さん、田中さんからはパソコンや統計処理等を根気よく、基礎から学ばせていただきました。長期履修生の 2～3 年目に行ったインタビュー調査は、村田さんの色々な手助けにより無事終了しました。最終年は森さんがいつも同席して下さり、心強くまとめることが出来ました。

修士課程修了時、実習施設の指導者に指導する機会がありましたが、橋本先生の気遣いや励ましを真似して、教育にあたってみました。

長期履修生として 3 年半の長きにわたり、最後まで温かい励ましとご指導をいただきました橋本先生、村田純子さん、茂木輝順さん、小竹和美さん、森岡真梨さん、丸井淑美さん、森友里奈さん、澤村文香さん、田中和江さん、佐久間慶子さんの皆様に、心より感謝と御礼を申し上げます。

ありがとうございました。